

米が北朝鮮空爆？総選挙後の政権課題

タイミングは今しかないと 安倍首相が仕掛けた解散・総選挙

政治ジャーナリスト 鈴木哲夫

国連で放った対話の全面否定

「まずは内閣支持率が回復して来たことです。森友学園、加計学園の問題などで、安倍首相が不誠実だと支持率がこれまでにないほど下がった。ところが、その後特に北朝鮮への対応で支持が戻ってきた。2つ目は野党の現状。民進党がボロボロ。小池新党もまだ準備がままならない。今やれば必ず勝てる」――。

安倍首相の側近の1人は「なぜ今か」についてそう話した後、背景にある北朝鮮問題の深刻さをつけ加えた。

「実は、年末にも北朝鮮と米国の関係は軍事衝突となる可能性が出て来ている。日米の外交筋では、トップ同士の間でこうした情報が共有されているんじゃないかな。その観点からも、今のうちにやらなければ、解散時期は限りなく任期満了にまで追い込まれる。ならば今しかない、ということではなかつたか」

解散総選挙の後は、安倍政権にとっておそらく第二次政権発足後、最大級の政治課題が一気に降りかかる。その筆頭は、北朝鮮有事をきっかけにしての日本の安全保障・外交の姿だ。日本が、北朝鮮にどう対応し、何を備え、世界にどう発信するかは、国民的な議論が必要だ。

気になるのは、安倍首相が総選挙前の9月21日(日本時間)、ニューヨークの国連総会で一般討論演説を行なったその内容だ。

北朝鮮問題を取り上げたのはもちろんだが、その内容は特徴的だった。北朝鮮を厳しく批判した上で、「必要なのは対話ではない。圧力だ」と「対話を全面的に否定したことだ。

「対話とは、北朝鮮にとって、我々を欺き、時間を稼ぐためむしろ最良の手段だった」

「北朝鮮に総ての核・弾道ミサイル計画を、完全な検証可能な不可逆的な方法で放棄させなければならない。そのためには対話ではな

「対話による問題解決の試みは無にしておそらく第2次政権発足後、最も大きな問題だ。」

実は、安倍首相の演説より前、トランプ米大統領が初めての国連総会演説を行なつたのだが、その内容は同じように北朝鮮を容赦なく批判したものだった。

「今日の我々の地球に対する罰は、小さなならず者の独裁国家グループによって引き起こされている」として、北朝鮮の最高指導者である金正恩氏を、まるで映画の主人公でもあるかのように「ロケットマン」と稚拙に揶揄し、「ロケットマンは自殺行為に突き進んでいる」と言い放った。

この他、トランプ大統領はイラン、ペネズエラなども次々に批判したのが、国連という場で、存在感を示してきた米大統領の演説としてどうなのがという批判が、世界中で上がった。「トランプの無知なヘイトスピーチ」(出席者)、「支離滅裂で威圧的な空気」(英紙)など。

そもそも、総会冒頭でグテレス国連事務総長は、「怒りがこもつた対話



国連総会の一般討論演説に臨んだ安倍首相は北への「圧力」を強調（首相官邸）

3連休を使い公明党説得工作

安倍首相が、かつて私のインタビューに「政治信念ですから」と答えたのが憲法改正。長期政権維持を第一次に掲げ、無理に改憲で突破しないのではないかといった見方をする自民党幹部もいるが、「首相は絶対やる」

安倍氏の政略にも影響を及ぼす？金正恩氏



は、取り返しがつかない誤解につながる」と演説し、トランプ大統領の演説内容を危惧していた。

日本の存在感にマイナス点？

ところが、安倍首相の演説もトランプ演説に歩調を合わせ、「対話ではなく圧力」と言い切ったのだった。外務省OBはこう感想を話す。

「国連というのは何なのか。場合に

よつては制裁決議などもありますが、外交的な対話が基本です。そうやって、解決策を見出していくこととするのが国連なのに……。トランプ大統領がああいつた演説をすることはある程度予想できましたが、日本までが『対話に意味がない』などと追従したのは驚きました。一体この問題にどう対処するのか。考えなければならぬのは出口です。それは対話と朝鮮

半島の非核化でしょう。安倍首相の演説には、せめて対話という日本ならではのメッセージを入れるべきでしたし、場合によっては拉致問題という全く別の視点での発信とアプローチをしてもよかたのではないか。国連での日本の存在感は、マイナス点がついたのではないか。それにしても、日米で演説内容を擦り合わせたのは間違いないでしょう」

しかし、今回そこまでトランプ大統領と安倍首相が密接に連携したとすれば、冒頭の側近議員が推測するように、『北朝鮮への軍事行動情報の共有』も充分あり得ることになる。

「本当に愚かな戦争になつて行くのか。再三繰り返しますが、出口は何か。そこへ向けて日本は米国にもモノ申し、関係各國の接着剤になるなど独自の対話外交を進めるべきだと思います」（前出OB）

実際、今回の解散総選挙の影で、安倍首相と公明党の間で、憲法改正がらみでの駆け引きがあつたという話もある。

そもそも、解散総選挙の話が永田町で表に出始めたきっかけは、公明党の最大の支持団体である創価学会



安倍氏と会談を行なった山口氏（公明党）

開票という話になるんだろうということが分かりましたね」

安倍首相が、臨時国会冒頭の解散を決断するまでに、まず、9月10日

に東京・富ヶ谷の安倍首相の私邸で、

早期解散を勧める麻生太郎副総理

兼財務相が訪ねて来て会談。そして、

翌11日には、首相官邸には連立を組む公明党の山口那津男代表、自民

党の二階俊博幹事長が相次いで訪れ

敬老の日を含むせつかくの3連休も、

台風18号が日本列島を縦断するとい

う最悪の天候となつた。

もともと創価学会は、その3連休

を使って、会員らが全国各地でそれ

ぞ対話の会合を開く予定になつて

いたが、台風のために総て中止とし

ていた。

ところが、17日。そんな状況の中

にあつて、急遽全国各地の支部の選

挙対策の責任者に召集がかかつたの

だった。

公明党国会議員秘書が言う。

「驚きました。台風で交通手段だつ

てままならない中で敢えて集まれと

はよほどのことだと。いつと決め打ち

はしないけど、遅くともこの臨時国

会中に解散になる、最短で10・22投

は、東京の自民党中央堅国会議員だ。

の動きだつた。9月16、17、18日。

敬老の日を含むせつかくの3連休も、

台風18号が日本列島を縦断するとい

う最悪の天候となつた。

実は、安倍首相が山口代表と会う

場面というのは「よほど的重要局面」

だと公明党参議院議員が言う。

「2人は政策理念や政治姿勢などケ

ミストリーが合う方ではない。日常

的に会つていろいろ話し合うような関

係ではない」（同）

また、安倍首相と山口代表の会談

は18日にも行なわれた他、官邸との

間を行き来した二階氏も公明党や

学会には太いパイプがある人物。

こうしたことから、安倍首相の今

回の解散のタイミングの背景には、公

明党の意見や姿勢も関わっているので

はないか。

そしてそれは、「早期解散工作」

があつたのではないか、と分析するの

はしないけれど、遅くともこの臨時国

会中に解散になる、最短で10・22投

「学会は最大決戦だったこの夏の都

議選を終えて、今後来年に向けては

学会の重要なイベントや活動などが目

白押しで総選挙どころではないこと

から、やるなら今、というのが本音

だと学会の地域の幹部から聞いてい

ます。一方、山口代表。公明党は

憲法改正勢力とされているが、9条

改正には慎重。法律家である山口代

表は特にそう。自民党はこの秋に草

案をまとめる方向でしたが、山口代

表はこのところ『常在戦場』と早期

解散を支持して来た。今選挙をやれ

ば、改憲論議を棚上げできるとい

う思いがあつたはず。こうしたことから、

会談で山口代表はこうした空気を出

し、安倍首相の背中を押したと思いま

す」

この自民党議員が言うように、改

憲日程を少しでも遅らせたいのが本

音とすれば、今後自民党が草案を

まとめたところで、来年の通常国会

で発議まで行き着くかは不透明だ。

安倍首相周辺は、「小池新党の面々

は憲法改正に賛成と見ていいが、一

連の山口代表の発言などを聞いてい

ると、公明党は慎重にやつて来るだ

ろう。改憲勢力の根回しや再構築が

必要になって来る」と話している。

加速する自民党総裁選レース

そして、安倍首相にとって大きなヤ

マ場は、9月予定の自民党総裁選だ。

3選を目指す安倍首相に対し、戦

闘モードに入っているのが石破茂元地

方創生相だ。

前々回の内閣改造から入閣を断り、

地方創生など政権構想をまとめる

一方、全国を行脚して対話を続ける

など、次期総裁選で安倍首相と真っ

向から論戦する準備を進めている。

今回の早期解散についても、安倍首

相に對して厳しい言葉を放つて来た。

「国民党に何のため解散か、何を問

うのか、明確にする必要がある。（多

くの国民が）『この解散の意義は何な

のか』と思っていて」（自身の派閥總

会で）

「自民党に対する信頼が確固たるものになつてゐるとは思わない。7月の

東京都議選、今まで自民党的最低だ

った議席は38だったが、今年、都議

会で頂いた議席は23議席で史上最低

だつた。都議会で起つたことは、必

ず次の国会の選挙で起つる。そういう

ものだ。自民党は最近驕つてゐるのではないか、いい氣になつてゐるのではないか、國民をなめているのではない

